日刊 動労千葉

81.2.7

No. 652

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

「千葉地本再建」なるデッタラメな嘘

「千葉地本情報」（No.1）

『業務』は、いままで通り千葉事務所！

デッチ上げ「地本再建」のデタラメさを自己暴露！

動労「本部」革マル反動分子による動労千葉破壊＝千葉地本デッチ上げ「再建」策動の破産は、「一・三〇」当日のあの事態を見れば、もはや明らかである。

彼らがいかなるペテンとデマをもって「圧倒的に成功」などととりつくろおうとも、事実にまさる反論はないのだ。

しかし、動労「本部」反動分子は、「一・三〇」が破産したが故に、より一層、動労千葉解体、81・3ジェット闘争破壊策動を強めてくるであろう。

われわれは、こうした彼らの反労働者性・反動性をむき出しにした攻撃を粉砕し、81・3ジェット闘争を貫徹し、国鉄35万人体制粉砕・動労大改革にむけ全国の闘う動労組合員と共に前進するであろう。

破産した「一・三〇再建大会」の実態

「本部」反動分子は、「千葉地本情報（No.1.）で、「再建大会を千葉事務所で圧倒的に成功」などと宣伝している。

しかし、その実態は、すでにこの間、明らかにしてきたように当初予定していた労働者福祉センターでの「再建大会」を開くことが出来ず、千葉事務所＝津田沼三信ビルで前日から囲い込んでいた「大会」出席者を集めてコソコソと「再建大会」を強行したというのである。

こうして、コッソリと誰れにも知らせることなく強行された「再建大会」が銚子支部を見捨て、ただただ「本部」革マル反動分子の面子と動労千葉解体を目的としたものでしかないことは、誰れの目にも明らかである。

「一・三〇再建大会」の破産の実態の第一は、何よりも「一・三〇」直前の一月二七日、銚子支部臨時大会が「業務再開」白紙撤回を満場一致決定し、執行部が総辞職したことである。

この一年十ヶ月余り、東京地本委員長松崎自らが銚子に乗り込み、ありとあらゆる動労千葉への敵対をたきつけ、だき込み策をろうし、ついに、しびれを切らし、昨年末、十二月二三日の銚子支部執行委員会でクーデター的「業務再開」決定を強行採決させたのである。

銚子支部執行部の「業務再開」決定を受けて、「本部」反動分子は、銚子支部の参加を前提に「一・三〇再建大会」を設定し、「再建地本」執行委員の席まで用意し、「一・三〇」には、大型バスを用意しようとしていたのであった。

しかし、「業務再開」決定は、一・二七臨大において満場一致をもって否決され、白紙撤回されたのである。

「一・三〇再建大会」の破産の実態の第二は、警察権力に「会場警備」を正式に要請し、国鉄当局に対しても国鉄千葉駅から福祉センターまでの「保護」を願い出るというハレンチ極わまる、労働組合にあるまじき実態をさらけ出したことである。

「一・三〇」当日、千葉県警は、「本部」反動分子の要請を受けて五百名の警察機動隊・私服を動員し、装甲車、放水車、指揮官車で道路を封鎖し、労働者福祉センター周辺は文字通り戒厳状態におかれたのである。

「本部」反動分子は、このように、警察機動隊に手厚く守られているにもかかわらず、津田沼三信ビルへにげ込んでコッソリと「再建大会」を開かざるを得なかったのである。

そして、福祉センターの会場は、「再建大会」から急拠「報告集会」に切りかえられたのであったが、これとても、県労連・県社会党はもとより多くの労働組合から「挨拶」を拒否され、当然にも全く意気あがらない「集会」となったのである。

そして、「再建」はしたが「業務」は、今まで通り千葉事務所（所長・緒方某）が行なうのだという。

何をか言わんや!!　「再建」が全く中身の伴なわないデタラメかつデッチ上げそのものでしかないことを自己暴露しているではないか。

われわれは、この間、一月総行動の成果をさらに二月総決起行動にひきつぎ、81・3ジェット闘争への総決起体制を構築しようではないか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！